

News Letter



■2010年12月8日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

3つの方針の策定と一貫性の構築②： ディプロマ・ポリシーの策定と達成度の検証

教育支援の
リソース

はじめに

NewsLetterの第15号では、「3つの方針の策定と一貫性の構築」について、「日本の高等教育における質保証の方向性」という3つの方針の策定が求められる背景を説明しました。第17号では、3つの方針のうち、DPを策定する具体的な方法をご紹介します。DPの策定については、多様な方法があります。ここでは、第15号と同様に、人文学部のFD講演会や国立教育政策研究所のセミナーの説明内容をもとに、ひとつの見解をご紹介します*。必要に応じて参考にしていただければ幸いです。

「3つの方針」

- 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー，DP）
- 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー，CP）
- 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー，AP）

詳細については、NewsLetter第15号参照

内部の質保証システムの構築

これからの大学に求められるのは、3つの方針に関する体系性、整合性、有効性等を明確にし、これをPDCAサイクルで実現することです。教育目標の記述に関しては、B.S.Bloomの教育目標分類学（taxonomy）が広く利用されていますので、これを参考にするのがよいと考えられています。このうち、使用する観点として、認知、情意、技能表現からなる3つの観点、オレンジ色の5つの観点、この5つをまとめた4つ観点をいずれを用いることもできます。

	達成目標	向上目標	体験目標
認知的領域	知識・理解 (知識・理解)	論理的思考力・創造性 (思考・判断)	発見等
情意的領域	興味・関心 (興味・関心)	態度、価値観、倫理観等 (態度)	ふれあい、感動等
技能表現領域	技能・技術等 (技能・表現)	練達等	技能的達成等

目標類型と目標領域の観点からの代表的目標例の分類(梶田, 1978)

内部の質保証のシステムと具体的な作業内容は次のとおりです。

- 計画 (PLAN)** : 各学部や学科で観点別に人材養成像 (DP), CPを策定・公開する。
- 実施 (DO)** : 策定したDPやCPにもとづいて教育を実施する。
- 評価 (CHECK)** : 教育システム, 学習成果等を検証する。授業方法, 成績評価基準やその方法に関する事項で, 観点別の学習の到達目標を備えたシラバスを作成して公開したり, 観点別の学習の到達目標ごとの成績評価基準を策定・公開する。
- 実行 (ACTION)** : 評価結果にもとづいて改善方を策定・実行する。

認証評価の大学評価基準

三重大学が次に認証評価を受けるのは、2013年もしくは2014年です。認証評価では、PDCAサイクルを構築して自己点検・評価していることを、根拠資料をもとに説明することが重要になります。DPに関する認証評価の大学評価基準（2011年度実施分）は次のとおりです。

基準1 大学の目的

1-1 大学の目的（教育研究活動を行うに当たっての基本的な方針、達成しようとしている基本的な成果等）が明確に定められており、その内容が、学校教育法に規定された、大学一般に求められる目的に適合するものであること。

1-2 目的が、大学の構成員に周知されているとともに、社会に公表されていること。

基準5 教育内容及び方法（学士課程）

5-3 成績評価や単位認定、卒業認定が適切であり、有効なものとなっていること。

基準6 教育の効果

6-1 教育の目的において意図している、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、教育の成果や効果が上がっていること。

典拠：大学評価・学位授与機構。大学評価基準 http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/1178444_1137.html (2010-12-05参照)

* 川島啓二, 沖 裕貴, 佐藤浩章, 山田剛史. 「3つのポリシー(DP, CP, AP)をどう構築するのか? : 学士課程教育の一貫性」[高等教育開発セミナー]国立教育政策研究所, 2010.9.3.

沖 裕貴. 「教育の質保証を目指して: 3つのポリシーの策定とその実現方策」[三重大学人文学部FD講演会]三重大学人文学部, 2010.6.9.

DPの策定：観点別の人材養成像の例

DPは、学部や学科の人材養成像で、学部や学科が教育活動の成果として学生の卒業時に保証する最低限の基本的な資質を約束するものです。

DPを策定する具体的な作業として、まずは現時点で教授会規定や研究科規定等に示している教育目標を分割して、観点別に分類することから始めるとよいと考えられます。DPの数に決まりはありません。多くの大学が5～6つのDPを設定しています。次に、観点別のDPの例を紹介します。

立命館大学の文学部のDP

- ① 人間や世界の様々な文化について幅広い知識を身につけ、人文学の方法論を用いて理解をすることができる (知識・理解)
- ② 現代・過去の社会や文化に対して多面的な関心を持ち、自らの見解を形成できる (思考・判断)
- ③ 個人や文化の多様性を認め、社会の一員として行動できる (思考・判断)
- ④ 人間や文化について関心を持ち、自らの力で課題を設定し探求する意欲を持つ (関心・意欲)
- ⑤ 現代社会が抱える問題に対し、大学で学んだことをもとに解決しようとする態度を持つ (態度)
- ⑥ 自分の調査・研究の結果を、口頭あるいは文章や制作物の形で表現することができる (技能・表現)

典拠：立命館大学文学部。人材育成目的と3方針。
http://www.ritsumei.jp/lt/untitled_001.html
 (2010-12-05 採取)

立命館大学のように、DPをすでに策定した大学はこれをWeb上で公開しています。

DPの策定の留意点は次のとおりです。

1. 4年間の学士課程教育で保証する最低限の学習成果を記述する。
2. 3～5つの観点別に、学生を主語にして「～できる」という行為動詞で記述する。
3. 観点別の人材養成像について、どの科目群で育成するのかを考えておく。
4. 観点別の人材養成像について、どのように達成度を検証するのかを考えておく。
5. どの観点にも分類できない人材養成像があっても、柔軟に対応する (DPとして加える)。
6. 可能な限り、単文で表現する。

策定したDPを学部や学科の教職員や学生と共有することが重要になります。

CP等の策定方法については、次号以降でご紹介します。

DPの達成度をどのように検証するのか

設定したDPはカリキュラムの中で必ず達成しなくてはなりません。各授業科目で学習の到達目標の達成を検証することが、DPの達成度を検証することになります。ですから、各授業科目の担当者が、学部や学科のDPを視野に入れながらその授業科目の学習の到達目標を設定し、これを厳格に評価することが重要になります。

各授業科目の学習の到達目標についても、観点別に設定するのが有効です。1つの授業科目ですべての観点からなる学習の到達目標を必ずしも設定しなくてはならないということはありません。1つか2つの観点でも、問題はないのです。学習の到達目標はC (60点の基準) を設定します。B以上の目標については、学習の目的 (一般目標) で説明することになります。学習の到達目標を明確に設定することによって、学習内容や成績評価の方法についてもある程度決まってきます。

達成度を厳格に評価するとは、設定した学習の到達目標の観点ごとに「どのような方法によって」、「どれくらいの割合を」評価するのかという成績評価の基準を明示し、これにもとづいて成績点を付与することです。成績評価の方法と基準を「定期試験70%、授業内のレポート20%、授業外のレポート10%」と設定することなどを意味します。観点別の学習の到達目標ごとの成績評価方法の例は次のとおりです。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
テスト法	◎	○			
レポート法	○	◎	○	◎	○
観察法	○	○	◎	○	◎
面接法	◎	◎	◎	○	
質問紙法			◎	○	
自己評価法		○	○	○	○
相互評価法		○	○	○	○
作品法			◎	○	◎
ポートフォリオ法	○	○	○	○	○
ルーブリック法	○	○	◎	◎	◎

(高等教育創造開発センター 野村由司彦、長澤多代)

参考資料

- ・沖 裕貴。「観点別教育目標から考えるカリキュラム・ポリシーの構造」『立命館高等教育研究』No.7, 2007.3, p.61-74。
 [http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/outline/kiyo/kiyo7/07_4_oki.pdf] (参照 2010-12-06)
- ・沖 裕貴。「山口大学と立命館大学におけるカリキュラムポリシーの構造化」『大学教育研究年報』No.13, 2009, p.101-120。
- ・佐藤浩章。「学士課程教育体系化のステップ：第1回組織体制づくりとめざすべき人材像の策定」『Between』2010春夏。
 [http://benesse.jp/berd/center/open/dai/between/2010/04/06step_01.html] (参照 2010-12-06)